

日 時	令和 7 (2025) 年 2 月 18 日(火)
場 所	幸田町教育委員会
出席者 (敬称略)	幸田町新博物館建設検討委員会 黒柳孝夫 (愛知大学 名誉教授) ※委員長 荒井信貴 (名古屋大学 講師) 神谷浩 (徳川美術館 副館長) 武村雅之 (名古屋大学減災連携研究センター 特任教授) 岩下英司 (深溝小学校 校長) 神尾義貴 (町民代表) 天野広子 (町民代表) 本多宣子 (町民代表) 池田和博 (幸田町教育長) 菅沼秀浩 (幸田町教育部長) 幸田町教育委員会 文化スポーツ課 夏目守雄 (教育部次長兼文化スポーツ課長) 神取龍生 (文化スポーツ課課長補佐文化グループリーダー) 志賀光浩 (文化スポーツ課スポーツグループ特命専門員) 石原憲人 (文化スポーツ課文化グループ主査) 株式会社 丹青社 森富弘 中尾友莉恵 崎山幸子 久保はるか
目 的	第 4 回委員会

I. 開会挨拶

- ・ (委員長) 基本計画における最後の委員会である。博物館の建設には時間がかかるため、地道に委員会を重ねながら、継続して進めたい。今後もご協力をお願いしたい。

1. パブリック・コメントについて

- ・ (事務局) パブリック・コメントを実施した。配布した通り、ご意見をいただいた。ご意見の一部は、基本計画に組み込んだ。

II. 幸田町新博物館基本計画について

2. 「第 1 章 基本的な考え方」について

- ・ (委員) 「事業活動の基本的な考え方のイメージ」図が入り、分かりやすくなった。「みんなで発見」と「みんなが交流」を横並びにし、そこから「ともに成長」につながる図にするのはどうか。
- ・ (事務局) 表現方法を再検討する。
- ・ (委員) 「郷土資料館の課題」として「駐車場が狭い」という文言を追加してはどうか。
- ・ (事務局) 承知した。

3. 「第 2 章 事業活動計画」収集・保存、展示について

- ・ (委員) 収集スペースは 1 年でいっぱいになるだろう。「写真・映像・音響 (アナログ、デジタル)、

オーラルヒストリー」に力を入れ、町民へも写真等の収集を呼びかけるとよい。これらはスペースを取らない。

- ・（委員）パブリック・コメントでは昭和に力点を置く提案があった。回想法を用いた医療に活用することについては面白いが、博物館としては学びに力を入れることが重要だと考える。歴史の時代認識は変わるため、柔軟に対応できるようにするべきだ。博物館の本来の目的は、モノから先人の知恵を学ぶことであり、心の栄養になることが重要である。
- ・（委員）時代背景を深掘りする工夫が必要だ。モノを並べるだけでは面白くない。
- ・（委員）ノスタルジーや医療に役立つ博物館があってよいと思うが、幸田町の新博物館においては、企画展等で時々展示するのがよいのではないだろうか。
- ・（委員長）テーマを小出しにすることが大事である。理念がしっかりしていれば、モノをたくさん並べる必要はない。また、今の時代に対して問題意識を提起することが重要である。
- ・（委員）問題意識の提起は重要である。したがって、町には博物館による表現等を制約しないでほしい。制約があると、実に面白くない展示になる。できるだけ自由に博物館が独自性を持って運営できる体制を町として意識して作ってほしい。

4. 「第2章 事業活動計画」利用者サービスについて

- ・（委員）博物館の本質から外れないようにすることが重要。来館者には博物館の面白さを感じて帰ってもらいたい。イベント等で来館した人が、博物館の魅力に気づく仕掛けが重要である。
- ・（事務局）新博物館は、飲食や販売機能をエントランスに設け、来館者の楽しさを提供する。博物館内での販売には制約はないが、特に飲食店は採算性が厳しい。
- ・（委員）飲食と販売は重要である。マルシェ、キッチンカー等のイベント的なものを活用して来館を促進するのはよいアイデアである。
- ・（委員）定期的に関連グッズを販売するのはどうだろうか。関連グッズを販売するショップを持つことが重要である。
- ・（委員）ミュージアムグッズの原点は、展示を見て感動した気持ちを持って帰ってもらうことである。負担が大きくなるのを避けるため、ほかはプラスアルファの展開として考えるとよいだろう。

5. 「第3章 展示計画」常設展示について

- ・（委員）概覧展示において、東光寺遺跡が縄文時代から室町時代まで人が住んでいたことを伝える工夫があると楽しんでもらえるのではないだろうか。
- ・（事務局）概覧展示は詳覧展示の入り口であるので、必ずしもすべてを概覧展示で伝える必要はないと考えている。展示方法は今後、検討していきたい。
- ・（委員長）視察した豊田市博物館のジオラマは様々な時代を展示しており、効果的だった。
- ・（委員）豊田市博物館のジオラマは現在からスタートしている点が、来館者の関心を引いているだろう。来館者は自身が住んでいる場所について語り、盛り上がってから、過去のことを知るといった流れになる。
- ・（委員）展示方法は様々考えられるが、幸田町の繁栄の過程を伝えるのが重要だと考える。
- ・（委員）子どもたちに伝わりやすい展示が必要だろう。自分の住んでいた場所の過去を知ること、興味を持ってもらう。自分の家の周りにも歴史的に面白いものがあることや、自分たちのおじいさんのおじいさんのおじいさんがしていた生活について、自分から発信して考えられるような展示にしていきたい。
- ・（委員）概覧展示と詳覧展示を分け、展示にメリハリをつけることが重要であり、今後の検討ポイントになるだろう。展示の核が菱池であることは変わらず、それをどう見せていくのかということがいちばん大きな問題になるのではないかと。概覧展示を子どもたちに疑問を持たせるためのイントロとするならば、詳覧展示では、その疑問への答えとして、時代背景や当時の人々の

生活等をしっかり伝える必要がある。博物館は、モノを見ただけで感動するというものではない。

- ・ (委員) 限られたスペースで、見せて心をつかむことと、きちんと伝えるべきことをしっかり分けた方がよい。実物やパネル、ジオラマ、映像等の展示資料の使い方については、それぞれの特性を考慮して、効果的に伝える・見せるための工夫をする必要がある。見せて心をつかむ展示は大きなものでなくてよいが、効果のありそうなものを一つ作ってもらえるとよい。見せる中心に菱池を作って、来館者の心をつかむような工夫をするとよいだろう。

6. 「第3章 展示計画」企画展示について

- ・ (委員) 企画展の展開は、見せ方や内容によって異なる。例えば一つの資料を展示するにあたって、幸田町のものであるというように伝えるのか、幸田町のものであり広い範囲に影響を与えているものであると伝えるのか、めざす方向は異なる。その点では、伝えることと見せることの分別が重要である。そのうえで伝え方の媒体を選ぶことになる。伝える方向が内向きなのか、外向きなのかによって、博物館として収集する資料も変わるだろう。
- ・ (委員長) 「展示資料のイメージ例」について、「こんなものも展示するの?」というような資料も加えていただきたい。国宝や重文といった伝統的なものを並べるのが博物館だという固定概念を崩すために、例をもっと増やしていく必要がある
- ・ (委員) 「展示資料のイメージ例」を示す際、展示テーマと結びつける工夫が必要ではないか。展示タイトルを追加し、展示のイメージや企画を伝えるべきだ。
- ・ (委員) 自由な発想で企画展示を行うことが必要だ。楽しそうなモノを見られる、体験できることを伝えたい
- ・ (委員) 展示テーマは広く検討してよいだろう。ただし、次の段階では、博物館としての展示方針を絞り込む必要がある。でなければ、収蔵庫はすぐに満載状態になってしまう。町としての展示や収集の方針が必要である。
- ・ (委員) 展示しているモノが現代にどのように関係しているかを伝える工夫すれば、来館者の心をつかみやすい。なじみのない昔のものを現代のものに置き換えると、来館者がとっつきやすくなる。今の私たちの生活とのつながりを意識したかたちで働きかけていくとよい。

7. 「第4章 施設整備計画」について

- ・ (事務局) 「平面構成イメージ」図は面積を示したものであり、詳細な設計は今後行う。
- ・ (委員長) 駐車場確保の問題は議会で検討いただく必要がある。
- ・ (委員) 既存の農地を取得して駐車場にするといった対応策を町議会で検討していただきたい。
- ・ (委員) ハッピーネス・ヒル・幸田における施設で、建設後、大々的にリニューアルする必要があるのは博物館である。博物館は社会からの需要が変化し、資料も増えるため、発展していくものとして認識し、町長や議会に伝えることが重要である。
- ・ (委員長) 町民会館や図書館とどのように連携するのを見えるようにすることが必要である。
- ・ (委員) 図書館や町民会館から「博物館を早く作ってほしい」といわれるような、お互いにメリットのあるシナリオを作れるとよい。味方を増やすことは大変重要である。

8. 「第5章 管理運営計画」について

- ・ (委員長) 指定管理者から学芸員を採用している博物館はこの地域にあるだろうか。
- ・ (委員) 自治体と指定管理者の両方から学芸員を出している館はないだろう。直営・指定管理者制度併用は現実的だが、職員の継続性を確保するための工夫が必要だと考える。
- ・ (委員) 公共がつくった財団等が指定管理している施設は比較的よい状態にあるように思う。また、町民の財産である収蔵品、特に寄託の資料は取り扱いが難しい。公共としての財産管理をどのようにするのかについてはしっかり検討した方がよい。
- ・ (委員) 現在のハッピーネス・ヒル・幸田の指定管理者との関係性を考慮しながら、管理運営方式を

検討する。

- ・（委員）よい事業者に指定管理者を長く続けてもらうことが重要である。指定管理料が低く、苦勞している館は多いようだ。
- ・（委員）図書館と博物館との連携がうまく構築できるとよい。館長同士が対立せず、少ないイベントを取り合ったりするようなことがないよう、事前に話し合えるようにすることが必要だ。
- ・（委員）図書館と美術館をまとめて指定管理を受託する例があり、全体の責任者を美術館の館長が務めている。同じ指定管理者に依頼することで解決できる可能性があるだろう。
- ・（委員長）図書館と博物館の連携を考えるにあたり、組織建てについて学ぶ必要がある。
- ・（委員）休館日についても、図書館や町民会館と揃えることも検討することになるだろう。一般的に博物館の休館日は月曜日が多いのは、来館者が多い週末の後に資料を休ませるためである。

9. 「第6章 事業スケジュール」について

- ・（委員長）今後も引き続き委員に検討いただきたいと、町長から聞いている。建築手法を検討するうえで、国の補助金について学び、補助金受給のための折衝環境を整える必要がある。来年度は基本設計に入りたいが、現在はまだその準備が整っていない。再度町長と意見交換を行い、柔軟に検討しながら博物館の具体的な使い方を進めていきたい。

III. 閉会挨拶

- ・（教育長）郷土博物館の建設検討委員会は2021年度からはじまり、基本構想から最終計画までまとめることができた。建設的な意見に感謝している。町長部局、教育委員会ともに博物館の必要性を十分認識しており、前進したいと考えているが、具体的な財政計画を立てる必要がある。子どもたちや町民が学べる施設をつくっていきたい。一年間のご協力に厚くお礼申し上げたい。